

# 山行報告

## ■瓶ヶ森・石鎚山(かめがもり・いしづちやま)

●日 程：6月15日(日)～17日(火)

●参加者：L 島谷 SL 尾内 安田

●行動記録：

(12日)：伊予西条駅 9:20 発—瓶ヶ森登山口(10:45 着)11:00 発～瓶ヶ森(12:05 着)

12:35 発～瓶ヶ森登山口(13:25 着)13:40 発～山荘しらさ(15:00 着)

(13日)：山荘しらさ 8:00 発～土小屋(11:00 着)11:25 発～弥山・頂上山荘(15:00 着)

(14日)：頂上山荘 4:30 発～天狗岳 5:00 発～頂上山荘(5:15 着)7:30 発～一軒茶屋跡

(8:50 着)9:10 発～中宮成就社 10:30 発～ロープウェイ山頂駅 11:00 発—山麓駅  
バス停 12:02 発—伊予西条駅(12:56 着)

## ◆石鎚山登頂に大満足

島谷

気象状況により、出発を後ろに3日ずらして実施しました。参加がかなわないメンバーもいましたが「より安全に歩くことを優先してください」の言葉をもらい日程変更をしました。その結果、まずまずの天候でメンバーの目標をほとんど叶えることができる内容となりました。

瓶ヶ森(1897m)への登山は、晴天の中の笹原を歩き、山頂からは西方向に石鎚山、北には



瀬戸内海、そして南には遠くわずかですが太平洋を眺めることができました。急峻な山々がいっぱいあり「四国は広い」と感じました。「山荘しらさ」は独立したロッジ部屋で、カフェも食事も抜群によかったです。出発前日に土砂崩れで県道が不通になった区間がありましたが、私たちへの影響はなかったです。山荘しらさからも2日目宿泊予定の石鎚山頂上山荘からもルート確認の連絡があり、ありがたかったです。

翌16日は曇りで、雨にあたることなく土小屋経由で石鎚山二ノ鎖につきました。この日は、蛇2匹・大きな動かない蛙・小さいモフモフのウサギに会い、小鳥のさえずりやセミ・蛙の鳴声の中、鎖までは、豊かな森を堪能できました。

さて、時間は14時を過ぎており他の上り登山者はなく、私

たち3人は落ち着いて二ノ鎖にとりつくことができました。ザックを身体にしっかり固定し、シュリング装着、ヘルメットをかぶり、期待と不安のなか鎖に手をのばしました。固定された大きな鎖は安定しているものの、岩はかなり大きく急な斜面です。考えながら手や足を伸ばすのですが、ちょうどよい場所に指を引っかける岩があるわけではありません。思うようには上がれず、途中で「進むのを止めて下にくだりたい」と下を見ましたが叶うはずはなく、励みやアドバイスを互いに発しながら、何とか65mを上りきりました。

もう、体力も集中力も限界で「三ノ鎖はパス」に異論はなく、巻き道経由で石鎚山頂上山荘にたどり着いたときに雨が少し降り始めました。小屋スタッフの方々は、私たちのシュリンゲ・ヘルメット姿で憔悴しきった様子に「どのルートをきたの？」と驚かれました。それでも目標の一つだった鎖を一つでものぼれたので、3人とも満足でした。前日の山荘しらさ(1406m)も頂上山荘(1974m)も夜の風の音は豪快で、新幹線が通っているような、飛行機が飛んでいるような感じでした。17日早朝「天狗岳へ続く最初の短い鎖の下へ、行けるところまで。」と決めて雨具とヘルメットで出ました。もう少し、もう少しだけ先へと進むうちに、天狗岳の先が見えてきました。途中、何度も後ろから「ゆっくりよ」「慎重に」の言葉をもらって、気持ちを鎮めながら進めました。雨が降っていなかったこと、最初からあきらめずに試しに登山道をのぞいてみたこと、協力して声を掛け合いながら歩けたことが成功の要因でした。何より、他の登山者がなく、また少人数で鎖や天狗岳に臨めたことは運がよかったのです。多人数の山行の場合、計画できるルートではないと思っています。

石鎚山信仰は石鎚山そのものをご神体としており、それを具現化した三体の御神像が頂上神社にまつられています。山荘宿泊者は、その三体に直接触れさせてもらい御神徳をいただくことができます。天狗岳登頂後の朝拝でその機会をいただきました。山荘出発時には修験の山らしくホラ貝を吹いてもらい、スタッフは私たちの姿が見えなくなるまで手を振り続けてくださいました。「晴天の天狗岳を眺める」ことは叶いませんでしたが、大満足の3日間でした。



## ■初めての山歩き教室実技⑤サポート・六甲ロックガーデン

●日 程：6月15日(日)

●参 加 者：[サポート] L森本 SL小田 尾越 佐野 敷田 立花 田中(重) 田中(由) 松田 松本 山本(正)

[教 室 生] L砂川 SL木村 SL中村 池田 石堂 亀島 田坂 中西 林 古澤

●行動記録：阪急芦屋川駅 9:45 発～風吹岩(11:10 着) 11:20 発～雨ヶ峠(12:40 着) 13:10 発～一軒茶屋(14:00 着) 15:00 発～六甲最高峰(15:30 着) 15:45 発～石の宝殿(16:15 着) 東お多福山バス停(17:30 着) 17:37 発～阪急芦屋川駅(17:55 着)

## ◆「六甲山ロックガーデン山行の思い出の一日」

池田

当日の雨の心配をよそに朝方まで降り続いていた雨がからりと晴れ上がり芦屋ロックガーデン滝の茶屋から風吹き岩までは新緑と溪谷の流れる音で気持ち良いスタートになりました。

これより芦屋ゴルフ場を横目に六甲山最高峰を目指します。谷沿いの道を歩きグニャグニャと曲がりくねった道が延々と続き六甲山頂がとても遠いなーと感じながら一軒茶屋に到達した時は感慨深かったです。

六甲山最高峰は広々とした広場になっていて展望最高でした。

下山からのバスの乗車時間と今日1日の山行を計画してくださった方々に本当に感謝いたします。ありがとうございました。楽しい1日でした。

## ◆芦屋ロックガーデン〜六甲最高峰

石堂

今回もお天気が心配だったが、予報通り当日の早朝には雨は上がり、気温はぐんぐんと上がって快晴となった。

阪急芦屋川駅はたくさんの登山者で賑わっていた。今回は教室生7名と先輩方との山行。会長を先頭に教室生が続く。芦屋の高級住宅街を歩き、ロックガーデンの入り口に到着。

歩き始めてすぐに高座の滝でマイナスイオンを浴びて気持ちよいスタート。

お天気も良く、人気のコースだけに風吹岩までは渋滞していた。ボーイスカウトのグループや小さなお子さんとお母さん、ワンちゃんと一緒にの方などなど・・・、様々な方に追い越されたり追い越したりしながらゆっくりと進む。

ロックガーデンと名前の通り、岩々の道が続くが足の置き場や手の使い方などアドバイスをもらいながら岩場に挑戦。個人的に岩場に苦手意識があるのだが、ロックガーデンは大丈夫だった。足の置き場、掴むところを瞬時に判断するのはなかなか難しい。いろんな山を経験して馴れていきたい。

雨に洗われた緑が綺麗でフィトンチッド効果が期待できそうだななど思いながら風吹岩に到着。風吹岩では岩の上に上がり、神戸の街並みを写真に収めたり写真を撮り合ったりした。

途中の雨ヶ峠でお昼休憩。毎度の感想だが、山で食べるとなんでも驚くほど美味しい。

皆さんからいただいた冷たいゼリーなどがありがたかった。

ここから最高峰までの道のりが永遠に続くかと思うほど長く感じた。

2回ほど渡渉があり、前日までの雨で増水した勢いのある流れを滑らないよう、転ばないよう慎重に渡る。こんな場面も何度も体験したら慣れていくのかな。



自分のミスでコルセット装着を忘れていた為、後半はいつも以上にペースダウンしてしまった。下山までバテない体力作りが必要だなと痛感。景色を楽しむ余裕もなく勿体ない。

やっとの思いで一軒茶屋到着。冷たいアイスクリームを期待して頑張ったが残念なことにお休みだった。仕方なく自販機でコーラを買ったのだが、大袈裟ではなく今まで飲んだ中で一番美味しいコーラだった。これからの私のご褒美はコーラに決定。



荷物を置いて最高峰までラストスパート。到着時はガスで眺望もなかったが、少しずつガスも晴れて 931m から四方を見渡す。やっぱり山頂での達成感は何物にも代え難い。

まだまだ登頂した山は低山ばかりだし少ないけど、これからたくさんこの達成感を味わっていきたい。

今回の反省点は持久力不足。毎日少しでもウォーキングやストレッチをし、トレーニングにも参加して最後まで同じ体力とペースをキープできるようになりたい。

楽しい山行をご一緒できた会長はじめサポートの先輩方、教室生の皆様とこれからもたくさんの山に行けますように……。ありがとうございました。

## ◆ワクワクの六甲山行

亀島

あまり下調べもせず、参加！芦屋川駅に到着すると様々な団体の方が登山の格好をしていてそれだけでワクワク。豪華な芦屋の家屋にも目を見張るものがありすぐに入口到着。雰囲気が高く、どんな登山になるんだろうと気持ち高ぶり、いざ出陣！結構な岩を登ると思わず、スリリング大好きな自分にとって更にワクワク！！ロックガーデンというだけあるんだなと！でもガーデン？笑。鳥の鳴き声やコアジサイを古澤さんに教えてもらい、いつも勉強になります！バス停に向かうまでの道のりもすごい道を通るものだなと、感心。1番感心したのは、会長の足さばき！！さすが会長だなあと。全く足がずるっとなることなく、淡々と歩く姿に本当に感心しました。まだまだ私は修行が足りません！下りをもっと上手く降りれるように工夫したいと思います。後、今回痛感したのは、水分が足りなかったこと。山頂に行く前に、持参した2本のペットボトルを飲み干してしまい、カラカラにならないか登りながら不安だったので、次から余るぐらい持っていこうと決意しました。1人ではなかなか行けない登山に皆さんと一緒に登れて幸せを感じました。もっとスリリングな山もあると思いますが、今まで登った中で1番楽しい登山でした！！ありがとうございました。



## ◆六甲山山行を終えて

田坂

心配された前日の雨も止み、いざ六甲山々道へ。会長の真後ろで足の置き方やテンポを学びました。帰路終盤の下りでも滑ったり、グラついたりされることなく、その足取りの境地に達するには日常のトレーニングが必要だと感じました。

沢あり、岩場あり、景色は??でしたが、心地よい疲れと共に、仲間と歩く山の魅力に引き込まれてしまいました。

今後とも宜しくお願いします。

## ◆なめんなよ！六甲山

中西

初めての山行にて、六甲ロックガーデンへのお仲間にして頂き、同行のメンバーの方々には感謝しております。

休日と相まって大勢の方々と、少し驚きましたヨ！？

結局山頂へは行かずに少し手前で長の休憩をしました。  
思い出に残るは、三宮での会ですねえ。楽しませて頂きました。  
何のためにわざわざ出掛けたのかねえ？何て反省しきりです・・・

## ◆「アイスクリーム食べたかったなあ」

林

リーダーの山行計画書に「六甲山最高峰」ってコース案内されていたのに、ちゃんと確かめもせず参加した六甲山ロックガーデン山行。標高437メートル風吹岩での休憩中に「まだ行程の3分の1」と聞いて、えーっとなびっくりしました。が、5歳児7歳児とそのお母さんも子供二人分の荷物を背負って登っているんだから私も頑張れると奮起しました。ところが、次の休憩で腰を下ろした途端に左足がつりました。すると先輩がすかさず持参の塩を下さり痛みはすぐに消えました。山行前のストレッチ時にいただいた漢方薬も服用、その後も頂上付近でアイスクリームを食べれるという励ましや、弁当タイムでご自分の市販の菓をくださったり、一軒茶屋で今度は両足がつりマッサージしてくださったり、鳥の名前や花の名前、環境問題など山遊会の方々の知識と思いやりでなんとか下山できました。まだ入会して間もないので名前と顔が一致せずちゃんとお礼も言えてないのでこの場をお借りしてお礼を言います。本当にありがとうございました。前日までの雨で川が増水して勢いもあり、子供の頃の川遊びを思い出しました。一緒に回った母娘連れとともに忘れられない山行になりました。

## ◆仲間との絆

古澤

今年度新入会の仲間と共に参加した山歩き教室。会長をはじめとする経験豊富な先輩方に導かれ、無事に六甲山最高峰に立つことができました。梅雨の晴れ間で湿度も気温も高く厳しい山行でしたが、その分達成感は半端ない。そして、今回参加できなかった仲間ともLINEグループで感動を共有できたことで絆が深まったのは、とても嬉しい収穫でした。

阪急芦屋川駅北の広場から、高級住宅街の景観を楽しみつつ登山口へ。涼風吹く高座の滝、難所ロックガーデン、違う惑星へ迷い込んだかのような風吹岩を経て六甲山最高峰へ。さらに蛇谷北山を越えて東おたふく山登山口バス停へと下山する縦走路は、変化に富んでいてとても楽しいルートでした。

私はできるだけ会長のすぐ後ろを歩かせていただき、歩調を合わせました。静かにゆつくりと足を運び、大地と仲良くするような優しい気持ちで歩くと、息も乱れず足の疲れも少なく感じ、結果、休憩も少な目で大丈夫。いつものバタバタした歩き方を反省する機会となりました。

ありがとうございます。



登山道では鳥のさえずりを聞きながら、樹木や足元の草花にも目を向けました。コアジサイが満開で、淡い青紫の花がとても涼やかで可愛い。ふと目に留まった個性的な葉は「テイショウソウ」と判明し、兵庫県レッドデータランクCの希少な山野草とのこと。秋には細くて長い花穂に白く繊細な花が

咲き風に揺れる様子が美しいそうで、ぜひその姿も見に行きたいと思っています。

下山後は三ノ宮での打ち上げに誘っていただき、諸先輩方や仲間と山談議に花を咲かせて、学びと発見に満ちた一日の締めくくりとなりました。

## ■十勝岳・夕張岳(ユウバリソウを見る)

●日 程：6月25日(水)～28日(土)

●参加者：L 中村 SL 安田 木村 笹木 島谷 平井 村上

●行動記録：

(25日)：千歳空港(10:20 着)10:40 発—麓郷の森(15:00 着)16:50 発—十勝岳望岳台(18:10 着)18:20 発—吹上温泉白銀荘(18:30 着)

(26日)：吹上温泉白銀荘 4:45 発—美瑛岳分岐(6:35 着)～十勝岳避難小屋(6:45 着)6:55 発—昭和火口(8:15 着)8:30 発—十勝岳山頂 2077m(9:55 着)10:15 発—昭和火口(11:20 着)11:25 発—十勝岳避難小屋(12:40 着)12:50 発—美瑛岳分岐(13:00 着)～吹上温泉白銀荘(14:20 着)14:50 発—十勝岳温泉凌雲閣(15:00 着)

(27日)：十勝岳温泉凌雲閣 9:10 発—後藤純男美術館(10:00 着)11:50 発—富良野日の出公園(12:10 着)12:45 発—夕張炭鉱博物館(15:40 着)16:50 発—夕張フォレストファーム(17:50 着)

(28日)：夕張フォレストファーム登山口 3:00 発—夕張岳登山口(4:10 着)4:30 発—冷水コース分岐(4:40 着)4:45 発—馬の背コース分岐(6:25 着)～望岳台(7:15 着)7:30 発—ユウバリソウ群生地(9:25 着)9:30 発—水場(11:00 着)～望岳台(11:30 着)11:45 発—馬の背コース分岐(12:25 着)12:35 発—冷水コース分岐(13:55 着)～登山口(14:00 着)14:10 発—千歳空港(16:20 着)



## ◆植生の途絶えた黒い山。。。十勝岳

笹木

十勝岳は大雪山の南にある活火山で今も噴煙をあげている。昭和火口を始め、大正火口、グラウンド火口、すり鉢火口など多くの噴火口を持つ。グラウンド火口内では、過去 150 年の間に 5 回の噴火記録があり、近いところで昭和 37 年に大噴火、63 年～平成元年にも噴火している。

昨年、大雪山系に登ったメンバーに「望岳台」からの眺めが素晴らしかったと聞いて、前日にその場所に連れて行ってもらった。「展望台」という言葉はよく聞くけど「望岳台」は耳慣れず、なぜ展望台ではないのだろうと思ったが、現地に行ってみて成程と思った。十勝岳の裾の泥流土の上に立ったら、ドーンと遙か遠くに白い噴煙を上げている赤茶色の山塊があった。十勝岳に連なる美瑛岳や富良野岳が視野いっぱいになり壮観な眺めだった。明日登るんだと期待が膨らむ。

吹上温泉白銀荘を 4 時 45 分に出発した。緑茂る草木の間を歩いて行くと、すぐにマイヅルソウやゴゼンタチバナの花が迎え





てくれ、イソツツジとマルバシモツケの白い花が火山岩の間に咲き誇っていた。リーダーが心配していた富良野源流の渡渉は少し水かさがあったが全員無事に渡り終えた。水辺に水芭蕉が二株、鮮やかなピンクのエゾノツガザクラ、薄紫のイワブクロなどの花を楽しながら歩いた。

望岳台・白銀荘の分岐に出ると他の登山者たちも増え、その後ろを追って火山礫の道を登る。緑のハイマツや花が少なくなってきた頃、リーダーの「休憩しましょか」の声に一息ついて後ろを振り返ると、なんと絶景！！ 緑一色の富良野平野が眼下いっぱい広がっていた。遠い地平線は薄いブルーとなって空とつながっていた。遮るものがないこの解放感！最高！！見とれていたなら、視界のど真ん中の大きな石に座っているメンバーの姿が。。。この景色を独り占めにしているようなその姿にスマホでカシャっ！

美瑛岳分岐を過ぎると 15 分で避難小屋に着いた。十勝岳山頂を見ると、黒茶色の山の間に二本の白煙があがり、その奥でもモクモクと噴き出しているのが見えたが、その方向はロープが張られて通行止めになっていた。左に逸れて沢を渡り隣の尾根に取り付いて、砂とゴロゴロ岩の斜面をペンキの矢印を頼りに黙々と登る。頂上も噴煙も見えなくなり、右手に長い雪渓が見えてきた。その縁に立ち、白馬の雪渓より大きいだの小さいだのと論争を重ねながらひと休憩。その雪渓も下に小さくなった頃にやっと昭和火口についた。下界の景色は遥か遠くまでブルーグリーン一色、家の形はもう見えない、既に一つの山に登った気分だ。皆でバンザイをして写真撮った。火口をのぞき込むとドラゴンアイの如く雪と少しの水をたたえて光っていた。

そこから先は黒土一色の山で、登山道だけが白く伸びている。周りは雪渓とのゼブラ模様の山塊だ。あのゼブラの向こうがグラウンド火口らしく 62-II 火口からの噴煙が見えてその上部が山頂らしかった。火口の縁に沿ってひたすら登る、登る、登る。もう緑は無かった。急坂を登りきると、なだらかな土色の砂地に出て、稜線が主尾根に向かって伸びていた。視線の遥か先に、稜線上を尾根に向かって歩いているパーティが豆粒の様に見える。その上に被さるように山頂がそびえ立つ。まだまだ遠い、しかも尾根筋に上がって行く道はすごい急登だ。一時間はかかるんじゃない？少し休んで雪渓をバックに集合写真を撮って気持ちを新たに挑んだ。



溶岩が固まってゴツゴツの岩山をジグザグに登る。思ったより楽に登れて 30 分で稜線に出た。頂上はまだ目の前だが、さらなる急登をもうひと踏ん張り。62-II の噴煙がすぐ下に見えてきたと思ったら頂上についた。頂上は狭い岩山だった。ガスが上がってきて視界は標識の周り数メートル。雲の中にすっぽり入っているようで、遠く十勝連峰、日高山脈まで見えるのを期待したが全く望めなかった。

下山はトントんと楽に下りられるかと思ったが、砂地は滑りやすいので慎重に下りた。途中から雲を抜けて視界が良くなりまたまた素晴らしい景色を堪能

しながら気分よく下りて行った。車を停めている白銀荘に着くなりアイスクリームとフルーツ牛乳を一気飲みしてやっと心地ついた。山頂での展望は叶わなかったが、道中ではガスが晴れて再び雄大な景色を眺められたことが幸いでした。

後になったが、白銀荘から登り始めてまもなく歌人`九条武子`の歌碑があった。当人は富良野の人ではないが、大正 15 年に十勝岳が大噴火した二年後にこの地を訪れ、泥流で亡くなった人の鎮魂をこめて読まれたという。「たまゆらに けむりおさめてしづかなる やまにかへれば 美るにしたしも」十勝岳は 30~40 年間隔で噴火を繰り返している。そろそろ噴火するのではないかと危ぶまれている。

前日は、映画「北の国から」のロケ地に行った。拾ってきた家、丸太小屋、石の家とドラマの中で作られた手作りの家が草原に並んでいた。昭和の時代の懐かしいものが沢山あった。白銀荘では二つの露天風呂に入った。混浴露天風呂には水着に着がえて安田さんと二人で入った。浴槽と浴槽の間に滑り台があり、真っ暗で少し怖かったけどお湯に乗ってスルリと滑って浅い浴槽に滑り落ちた。面白くて3回滑って、他に誰もいなかったので広い浴槽は泳いで渡った。楽しかったあー。水着の情報を教えてくれたメンバーに感謝。



## ◆夕張岳感想文

## ザ昭和の男 平井

「でっかいどう北海道！」山行案内で今年も唯一北海道山行を見つける。一度は登ってみたいかった北の山、いや実にありがたい！ Nリーダーと同期ということもあり、女性6人の中に厚かましくメンバーに入れて頂いた。3月にANA早割航空券購入、事前打ち合わせ（観光の希望聞いてくれた）6/7朝日山、檀特山で事前トレ実施

行先は新千歳空港から十勝岳、夕張岳 日程4日間おのおの片道約5時間コース。

まず旅の合間に名作倉本総ドラマ「北の国から」で有名な富良野「麓郷の森」、日本画壇を代表する画家「後藤純男美術館」、日本遺産炭鉱の街「夕張石炭博物館」に立ち寄る日程でした。

北海道の山には興味津々だが昨今各地でクマ被害が甚大、クマ対策として唐辛子スプレー、鈴、噛まれても頭まもるヘルメット！と三種の神器？を用意した。クマスプレーは偶然に旅の前日、山仕事専門店で発見 手ごろな価格でメンバーの命守れるぞ！、使命感で購入した。

ただ購入後、気になり保安検査の項目を確認、機内持ち込み禁止となってる！最高に悩んだ！

「まっ いいか！」保安検査時歎願し説明許してもらおう！楽観的過ぎました。猛省

スプレー類は保安検査でアウト！コインロッカー保管となり、いきなりメンバーに出発の慌ただしい時、貴重な時間取らせました。（ホテルに事前に陸送する手段あり）毎度しくじりましたが、何とか広大な新千歳空港に着きました。レンタカーは新車セレナ、心配してた荷物もバッチリ収納 夢の北海道初ドライブとなりました。天気も快晴 ナビ、車の操作にあたふたしながらも、頼もしいYナビケーターのホローで、占冠村経由富良野～麓郷の森到着。フィクションドラマとはいえ、北海道の雄大さ、さだ音楽とのマッチング、役者さんの気概が肌で感じられもうお腹いっぱい、僕は今を生きる幸せありがとう！ 16:00 十勝岳望岳台 <sup>ぼうがくだい</sup>これぞ北海道 雄大な風景が旅の疲れを癒しました。のち無事吹上温泉白銀荘到着

翌日は広大な十勝岳連峰を生んだ活火山、十勝岳に登山でした。（三浦綾子著 「泥流地帯」で噴火の詳細記録）＊毎回登山の度、大汗をかいだあとあの爽やかな風、この「快感」やめられない！3日目は観光！9:30 十勝岳温泉凌雲閣出発、道中にリーダー密かに待望のサクランボ発見！優しい民家さまのご厚意で、タダでチェリー狩り楽しめた。（さすが関西人！）後藤純男美術館～昼食は2階のレストランでピッツアランチ～北富良野町をあとにし夕張市に向かう～夕張石炭博物館～夕張メロン500円カット売りで満喫～お宿夕張フォレストファームB&B泊り（デザートにも夕張メロンだ！ 玄関に夕張メロン無造作に転がってるのがさすが夕張）翌朝3:30宿出発～シューパロ湖の橋渡り、規制遮断ゲートつきの林道に入る。





余り勾配は無いが狭い砂利道を、延々と川沿いを登山口目指してひた走るセレナ。4時15分登山口到着 「花の名山夕張岳」 いよいよスタート うっそうとした山中でヒグマに合わないようにと祈った。登山口はすでに数台の先客いたが空勇気100倍！ストレッチ後4:30スタートしました。馬の背コースと冷水コースあるが、今回は冷水が滝のごとく流れる涼しい冷水コースを選択 歩くこと10分冷水コース分岐4:40分その後延々とシナノキ林を上り、冷水の沢5:55木にはクマがひっかいた跡あり、馬の背コース分岐点に6:25高山植物を見ながらしばらく進むと「石原平」7:00きつい登りをロープをつたって歩くこと7:15一気に視界が開けてこんもりした前岳も視界に見て「望岳台」巻道を登ると雪溪が谷に残っていた。7:43。身長ほどある熊笹をかき分け進むと木

道が続く8:03 平坦な高原 「前原湿原」8:13 残念ながらすでに高山植物は開花おわり、かわりにオタマジャクシ生息、8:19 がま岩通過前方に夕張岳。頂上に人影見えている。8:28 がま岩看板通過8:33 頂上まで1,9KM 木道を延々と進む 木道は所々破損している。釣鐘岩9:12 (頂上まで0.8KM 登山道入口まで6,3KM 地点9:18 憧れの「ユウバリソウ」発見 ただすでに開花した跡でした。この辺りは尾根道となっており体も飛ばさそうな強風が吹きまくっていた。

帰りの飛行機時間18:30を考慮し、夕張岳登頂はリーダー判断で断念！9:20

(計画の9:30までに夕張岳登頂できることが必須条件であった。)

あと一歩見えているのに登れないとは実に悔しいが、日程上あきらめました。僕がもう少し速足で歩く必要ありと反省。帰路は霧も晴れ、視界は最高でした。望岳台11:31 昼食を登山道近辺で食べる。

「あんたら関西人やな！」なにやら影の声きこえたが…生命力が強いという意味かな？急激な下りで泥道に滑り、真向いの登山者の足元にこけました。女性登山者びっくり 自分の体力なさ反省、大事に至らなかったことに感謝、もっと体力つけなければならない。下れど下れど着かない、登山口14:00 やっと到着。登山靴の底を洗う。

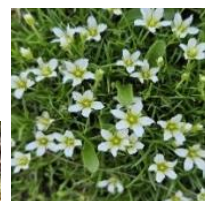
① 高山植物を外来種および里の植物に駆逐されないために登山靴の底を洗います

② また北海道の山ではトイレ汚物を持ち帰ることが必須です。携帯トイレを持参 道東自動車道～道央圏連絡道路使い新千歳空港でレンタカー返却

17:00 千歳空港 軽い食事し 18:30 発 ANA 神戸空港行き 20:25 神戸着

それぞれ帰路に着きました。とにかく全員無事に帰れたことに、企画頂いたNリーダーに感謝申し上げます。皆様楽しい思い出頂きありがとうございました。

僕はコインロッカー探し！クマスプレーを回収 ほっとして帰りの飛行機も爆睡状態でした。最後に機会あれば夕張岳リベンジしたいなー！



## ■夏山③ 編笠山～権現岳

●日 程：6月27日(金)～29日(日)

●参加者：L高島 SL尾内 團野 船本 宮川

●行動記録：観音平登山口 7:20 発～雲海(8:30 着)8:45 発～押手川(9:35 着)9:40 発～編笠山(11:35 着)12:30 発～青年小屋(13:00 着)13:30 発～西岳(14:40 着)15:00 発～青年小屋(16:20 着)5:00 発～権現岳(6:50 着)7:20 発～三ツ頭(8:10 着)8:30 発～前三ツ頭(9:05 着)9:15 発～天ノ河原(11:20 着)11:30 発～天女山登山口(11:45 着)～天女山登山口(11:49 着)11:50 発～八ヶ岳倶楽部(12:20 着)

### ◆はじめての夏山山行～南八ヶ岳を満喫する

團野

「夏山」という言葉は、登山を始めて以来、耳にする機会は多かったものの、登山初心者の自分が夏山に行く機会があるとしても、ずっと先のことだろうと思っていた。だから今回、突然巡って来た予想外のチャンスに驚きながらも、人生に一度あるかないかのチャンスだと思い、為せば成ると自分に言い聞かせて参加を決めた。

前日から夜行バスに乗り大阪を出発。翌朝 6 時、寝ぼけた頭で夜行バスを降りた瞬間、冷たく澄んだ朝の空気で、信州に到着した実感がすぐに湧き、身が引き締まる思いがした。最寄りのコンビニで食料などを調達し、タクシーで観音平登山口(1560m)へ向かう。梅雨の合間、登山日和の晴天に恵まれ、私たちが到着した時には駐車場は満車、車道にも、数十メートル先まで車が停められていた。大きなザックを背負った登山者で賑わう中、念入りに虫よけスプレーをしてから、私たちも活動を開始した。新緑と木漏れ日が爽やかな、なだらかな道からスタート。木々の間を吹き抜ける風が爽やかで、しばしザックの重さを忘れさせてくれた。なんだかイケそう、そう思えたのも最初だけ、気づけば道はどんどん斜度を上げ、ひたすら急登と高



低差の大きな岩道が続く(おまけにアブ等の吸血昆虫の猛攻を受ける)。高山の洗礼を受け落ち込んでいた時、「大丈夫。しんどいのは皆一緒」とリーダーから励ましがあり、挫けずに踏ん張ることができた。慢心創痍で到着した編笠山山頂(2524m)は、私たちの到着と同時にガスが晴れ、八ヶ岳や南アルプスの山々、富士山の姿までも 360 度の大パノラマで一望することができ、山からのご褒美をもらったような気がした。



編笠山山頂上で昼食休憩をとった後、本日の宿である青年小屋に向かった。事前にリーダーより、「岩々の道やで」と聞いていたが、ここでも予想をはるかに超えるスケールの岩たち(溶岩?)が立ちはだかり、岩と岩の間に落ちて挟まれないかヒヤヒヤしながら、慎重に行動する。すぐそこに山小屋が見えているのになかなか辿り着けず、やはり夏山は甘くないと痛感した。

山小屋でザックの中身を一部預け、本日二座目となる西岳(2398m)へ向かう。道中、湧き水スポット(乙女の水)でキンキンに冷えた水を調達。



普段は感じる事の無い水のありがたみを感じた。西岳へは比較的なだらかな白樺の道が続き、蟬やカエルの大合唱を聞きながら、1 時間程で山頂に到着。ここでも、南アルプスや、本日越えて来た編笠山、明日の目的地である権現岳や赤岳などを、雲一つない青空とともに一望することができた。帰路はビールが待っているから足取りも軽い。山小屋でメロン付きの豪華な夕食に舌鼓をうち、夕日や満天の星空も鑑賞することもできた。朝から晩まで初めてづくしで、大人になってから感じる事が少なくなった「初めての感動」を、久しぶりに感じる事ができた。

終始安全に配慮し、チームを支え励まして下さった高島リーダー、尾内サプリーダーをはじめ、チームの皆さんに心から感謝。貴重な経験と素敵な思い出を、本当にありがとうございました。

## ◆編笠山から権現岳2日目権現岳～三ツ頭～天女山

船本

2 日目は、3 時 3 0 分に起きて身支度を整え、みんなでシュリングを装着し、いざ権現岳へ！



快晴で気持ちがいい。「あのでこぼこした山へ行くのか～。楽しみ♪」なんてお気楽な私でしたが、しばらくしてから現実を思い知ることに。崖があらわれ、くさを必死でつかむのですが、「落ちたらどうしよう。怖い！」と思ってしまうと、もうダメ。足がすくみます。何とかひとつクリアしたところで、下りてきた人が「この先にもっとすごいのがあるよ～」と。確かに、その先がも

っと怖かった！途中で、もうどうしたらいいか分からず、岩にへばりつく始末。高島リーダーの「大丈夫！しっかりとくさを持って！」という声が耳に入り、何とか進みましたが、くさりや岩にしがみつきながらズリズリと進むしかできず、時間をかけてしまいました。もしドローンなどで撮影されていたら、絵にかいたようなへっぴり腰だったことでしょう。はあ、情けない。グループのみなさんは、温かく励ましたり見守ったりしてくださり、感謝です。

7 時前にこの先はもう大丈夫、とシュリングをはずして山頂をめざしました。本当に空が青くてとてもきれい。富士山もよく見えました。そこから先は順調に進み、あっという間に山頂へ。なんとという景色でしょう。北アルプスもよく見え、高島さんや尾内さんが「あれが御嶽山、あっちが乗鞍で、その向こうが槍ヶ岳。あれは・・・」というろ教えてくださり、よくご存知だと感心するばかり。(あまり覚えてなくてすみません) 北アルプスにはまだ雪が残っていて、すばらしい眺めでした。親切なおじさんがひとりずつ写真を撮ってくださり、『Mt.Gongen2715m』のプレートをもって、はい、チーズ。私は下を見てしまい、笑顔が引きつってしまいました。だって、2715m のてっぺんですよ！なんて貴重な体験なんでしょう。がんばったな、私。

そこからは、落ち着いていろいろな花の写真を撮りながら三ツ頭へ。今まで高山植物の写真を見て、普通に「きれいだな」と思っていたけれど、登っている途中で見ると、本当に可憐でかわいくて、癒されることに気がきました。







そんな愛くるしい花々を夢中になって写真におさめながら進んでいると、いつの間にか三ツ頭に到着。8時を過ぎると、だんだん靄がかかってきて、権現岳のでこぼこが見えなくなりました。やっぱり早出がいいんですね。赤岳のキレットはよく見えました。(あんなところを登るなんて、私にはまだ考えられません。)前三ツ頭までくると、だいぶん下に下りてきたように感じました。

それでも 2000mを超えてるんですよ。不思議な感覚でした。

天ノ河原まで下りが続き、石がごろごろしているし、足が疲れて踏ん張れず、2回もすっころんでしまいました。幸いけがはなかったのですが、みなさん、心配をかけてすみませんでした。このメンバーだから、最後までがんばれたと思います。夏山初心者仲間の團野さん、宮川さんは、同じく疲れているのに「荷物を持つよ」と言ってくれました。高島さんは様子を見て、いいところで休憩を入れたり、励まし続けたりしてくださいました。尾内さんはずっと後ろから見守ったりアドバイスをしてくださいました。本当に心強かったです。無心になって下りながら、シジュウカラ(?)やうぐいす、蟬の音が聞こえ、大自然を満喫していました。本当にしんどい下り道でしたが、それだけ高いところまで登っていたのかと思うと、ちょっと誇らしい気がします。最後、八ヶ岳倶楽部にたどり着いたときは、心の底からホッとしました。この夏山初体験は、忘れることができません。家に戻った今は、達成感とともに、きれいな景色やメンバーのみなさんとの楽しいおしゃべりばかり思い出されます。この筋肉痛が治ったら、また行きたくなるだろうなあ。

## ■初めての山歩き教室終了山行・氷ノ山

●日 程：6月28日(土)～29日(日)

●参加者：L 砂川 SL 春本 池田 石堂 亀島 喜田 小林 佐野 田坂 福原

●行動記録：

(28日)：鉢伏高原駐車場 12:15 発～高丸山(12:50 着) 12:51 発～鉢伏山(13:50 着)  
14:21 発～鉢伏高原駐車場(15:26 着) 15:45 発～民宿やねや(16:00 着)

(29日)：民宿やねや 6:07 発～まど登山口(6:30 着) 6:38 発～東尾根避難小屋(7:21 着)  
7:38 発～神大ヒュッテ(9:15 着) 9:45 発～氷ノ山山頂(10:17 着) 10:50 発～  
神大ヒュッテ(11:22 着) 11:31 発～東尾根避難小屋(12:55 着) 13:09 発～東尾  
根登山口(13:35 着)

## ◆氷ノ山(山歩き教室)終了山行

池田

当日 JR 宝殿駅南口に AM8 時 30 分集合。土山駅からの乗車でありましたが休日ダイヤを見落とし集合時間をオーバーしてしまいスタートが遅れ申し訳ない気持ちで出発。

「朝来サービスエリアで姫路からのマイクロバスと合流。座学の勉強会に出席していなかったのが初めてお会いする方が 3 人居られ「初めまして」と挨拶を交わす。

鉢伏高原 P に 11 時 50 分着 木陰で昼食をとる。冬のスキー場のイメージがあったので緑

の草原を見たのは初めてでした。キャンプされている方達にも感激をしました。

12時40分鉢伏山目指して登る。お昼からスタートしてなだらかな尾根の登りでしたが思ったより足や体が重く感じる。頂上は下界と比べて10℃の差がありました。暑さも吹き飛ばような心地よい風にしばらく浸る。田坂さんがまた覗き(天橋立風)をされていて私も体験したが転げ落ちそうな錯覚でした。

宿泊先の「やねや」では鍋料理を提供して頂き皆様とワイワイ言いながらの食事は楽しかった。



「蛍見に行かない？」との誘いや「星座を見よう」と誘われたりして楽しく過ごさせてもらいました。

2日目は6時に出発。東尾根登山口から登る。前日の暑さに比べ杉の木の合間から吹いてくる風が心地よい。神大ヒュッテで昼食し、湧水で顔を洗う。ペットボトルに入れた水が冷たくて美味しかった。沢を渡り人面岩を見ながら10時30分、氷ノ山頂上。頂上までは4時間余りの山行でした。

今回の終了山行には会長含め多くの方達、引率して下さった皆様方に感謝致します。

この経験を活かして同期の方々との触れ合い、絆を深めながら一緒に行ける山を目指して行きたいと思います。

ありがとうございました。

## ◆空に近づく鉢伏山・氷ノ山

## 石堂

待ちに待った終了山行、30℃を超える暑さの中、兵庫県最高峰の氷ノ山へ。

教室生全員とはいかなかったが、5名の教室生と会長とサポートの方4名の計10名。

姫路組、高砂組5名ずつに分かれて出発。

28日は高丸～鉢伏山を制覇してきたが、スタートが11:30だったのであの美しい緑広がる稜線歩きで熱中症寸前に陥ってしまった。

動悸、めまい、脱力感、筋肉のこわばり、手足の震え、力が入らない…が起こり、ほとんど木陰のない稜線上の貴重な木陰を探して座り込んでクエン酸の入った500mlを一気飲みして塩を舐めてなんとか回復した。



仲間との距離がどんどん広がる焦りとは裏腹に足は一步も前に出ず、本当に怖かった。重たいから置いていこうかな…と思ったけど入れておいたクエン酸に大感謝。

やっと着いた鉢伏山頂は22℃。大パノラマに感動。30分ほど休憩し、芝の上に大の字で寝っ転がったりして過ごす。

下りは元来た道を途中まで高丸山の手前のリフトの辺りまで戻ってからショートカットでグレンデを降りた。芝を刈ってくださっていて、とても歩きやすかった。

民宿やねやさん、エアコンなしでも快適に過ごせることに驚く。順番にお風呂で汗を流し、名物鉢伏鍋を美味しくいただく。皆さんといろいろお話をしたり、ホテル散策に出かけたりした。

残念ながらホテルを見ることはできなかったけど、空が綺麗で星、月がくっきり見れた。



明日に備えて早めに就寝。

29日は6時に民宿を出発。6:30にまだ登山口からスタート。

早朝スタートで気温も上がる前で樹林帯の中をゆっくりゆっくり進んで行く。1時間ほどで東尾根避難小屋。しばしの休憩。緑の中に赤い実を発見、グミの実。鉢伏への道中にもあったが余裕がなくスルーしていたが今日はしっかり写真にも納めた。熟しているものは濃い赤で柔らかで甘酸っぱく、思いがけないデザートに元気をもらった。

ここから1時間くらいのペースで一の谷休憩所～神大ヒュッテと進む。神大ヒュッテではしっかり休憩。やねやさんに用意していただいたお弁当を半分ほどいただく。ご飯に梅干し、卵焼きに焼き魚、ウインナーが本当に美味しい。冷たい湧水で顔を洗い、減ったペットボトルに補水したりタオルを濡らしたり、この水で生き返る気分。

山頂まではあと1キロ。ここからは樹林帯もなく、照りつける陽射しを背中に浴びながら歩くこと30分。あと0.5キロの道標を見てテンションも上がる。そしてついに、兵庫県最高峰 氷ノ山 1510m 登頂。前回に来たときはガスと寒さで景色も何も楽しめなかったのが今回は360°の絶景を楽しむ。前日苦労した鉢伏山も見渡せるが、鉢伏山も想像以上に高く急斜面を降りたことがわかる。見渡す限りの青空と緑連なる景色に暑さも吹き飛ぶ。これを目標に4月に教室に参加したので本当に嬉しかった。旗と一緒に記念写真を撮り大満足の中ピストンで下山開始。分岐で東尾根登山口へ。当初の計画では東尾根登山口から登る予定だったが、なるほど…これは下りにしていただいて良かった。登りがこれだとなかなかきつかっただろうな。連日の疲れか集中力の低下か、途中2回滑って転んだが怪我もなく、2時間半程で無事に下山。軽くストレッチをし、みんなで温泉で疲れを癒し、冷たいソフトクリームで締めくくる。

岩場や危険な箇所も少なく穏やかなコースではあったけど、暑さと無風の山行はかなりきつく、体力も気力も奪われていったけど、頂上はやはり最高。あの絶景は登った人にしか見ることができないご褒美。今度は紅葉の時期にまたチャレンジしたい。

会長はじめ、運営委員の皆様、サポートの皆様、会の先輩方と4月から3か月、座学と実技を体験し、改めて山の楽しさ、面白さを実感しています。これからも人生の楽しみとして山を続けていきたいと思います。

3か月、本当にありがとうございました。そして今後ともよろしく願い致します。

## ◆初めての宿泊山行

## 亀島

初日の鉢伏山。初めての夏のスキー場！芝生の色が綺麗で、眺めているだけで心癒されます。

日差しが強かったものの、六甲山の反省をいかし、飲み物も十分に用意したおかげで、六甲山とは違い、私自身はとても楽に登ることができました。

巨大なミミズを見たり、自然のグミを食べたりと今までにない楽しみ方ができました。

やねやさんでの宿泊もとても良いひと時を過ごせました。皆さんとても親切な方たちばかりで、気兼ねなく一緒に宿泊でき、本当にリラックスして過ごせました。

さて、翌日の氷ノ山。昨日とは違い、木陰の中を歩くことができたので、更に歩きやすかつ



たです。柔らかい土の感触も心地よく、山の生水も喉を潤し、癖になります。帰りに、温泉や海鮮せんべい但馬でせんべいの試食ができたりと、山登り以外の楽しさも感じることができました。

運営委員の方、ご一緒した皆さんに本当に感謝です。ありがとうございました。



## ◆終了山行氷ノ山

## 小林

座学が終わり、終了山行の氷ノ山が私にとっての最初の山行でした。

本当に初心者なので、不安と緊張であまり寝られず、朝から晴れて暑かったので、更に不安になりながら鉢伏山に着きました。

現地に着くと空の青さと絨毯の様山肌の緑に圧倒されて不安も飛び、綺麗な紫の野アザミに癒され、ワクワクしながら登る事ができました。

しかし、延々と続く長い階段に頂上まで行けるのかと心配していた所、グミを見つけ、昔食べた事を思い出し、迷いなく口に入れると甘酸っぱい味が体に染み込み、やる気が出てきました。

暫くして頂上に着くと暑さも吹き飛び、達成感で清々しい気持ちになり思いっきり寝そべりました。

みんな一緒にの目的に向かって達成した事が嬉しくなり、帰りは足取りも軽く、明日登る氷ノ山の頂上を見ながら無事、下山する事ができました。

やねやさんでお風呂に入り、鍋を囲んで食べると本当に来てよかったと感じながら、早朝に向けて早めに布団に入りました。

でもまた緊張の為、ほとんど寝る事ができずに朝を迎え、やねやさんを出発し氷ノ山の登山口に来ました。

登り始めると昨日と打って変わって、木陰の下を行くので爽やかで、気持ちよく登って行く事ができました。

途中の休憩場所でまたグミを見つけ、食べると今日より甘く感じられ、応援されてると感じました。



登る時間は長かったですが、途中神大ヒュッテに着くと沢から流れ出ている水で顔を洗い、飲むと生き返ったようになり、残り山頂までの1キロを登り切る事が出来ました。

頂上に着くと大勢の方がいてびっくりしましたが、昨日より達成感を感じ、自然の雄大さを改めて感じました。

目的に向かってみんなで一緒に達成できる事が凄く尊く、嬉しかったです。

下山した後の温泉でのアイスクリームも美味しく、試食したお菓子でお腹も満たされ、忘れられない思い出となりました。

見守って頂いた会長、サポートの方々に感謝し、気遣いをしてくれた同期の人達、ありがとうございました。

高御位山遊会に入って良かったです。これからもよろしくお願い致します。

## ◆終了山行(氷ノ山)を終えて

田坂

天気予報は両日晴天。

出発前夜は期待と不安と準備確認でなかなか寝付けず、まるで遠足前夜です。

現地に到着すると、そこはスキー場で新緑が美しく感動しました、

初日の鉢伏山は暑さと、二日目の氷ノ山は自身のふくらはぎの疲労との闘いでした。

グループ山行はその場の共有が一体感を生み、感動は倍に苦しさは半減してくれました。

長く時間を共有することで人となりを知り、深いつながりを覚えました。

山行が終の趣味であり、日常となるように、ますます経験を重ねていきます。

そして何より、一生歩き続けるカラダを手に入れたと思います。

山遊会の皆様、今後とも宜しくお願い致します。



## ■2025年 第25回初めての山歩き教室 反省会

報告者：中村

日時：7月9日(水) 19:00～20:20

場所：飾磨市民センター

司会：砂川(延)

受講者：池田・石堂・亀島・小林・田坂・古澤・山下・中西

スタッフ：中村・安田

### 1. 氷ノ山山行の反省

会計報告・・・例年通りの予算で終了した

## 2. 全体の感想

会長・・・氷ノ山の天気は良かったが、残念なことに、ガスがあり日本海が見えなかった。

予定のコースを短くしたので、ゆっくり歩けた。

小林・・・氷ノ山は暑かったけど、よかった。

古澤・・・いつもスピードを出して歩く方だが、ゆっくり歩くことを学んだ。  
コンパスの使い方を学んだが、実践できていない。

中西・・・最後の氷ノ山の山行に参加できなかったのが、残念。

六甲山山行後、ザコバでの親睦はよかった。

山下・・・これまでツアー会社の山旅に参加していたが、この度山歩きの基本が学べたのでよかった。実技の参加が出来なかったのが、残念。

石堂・・・友人と山歩きはしていたが、今回の教室で、改めて知ることが多く、  
巾が広がった。

亀島・・・山は個人的にしか登ったことがなく、荷物は軽ければよいと思っていたが、装備の大切さを学んだ。山の楽しさを感じた。

小林・・・氷ノ山では、おやつをもらったり、夜も心地よく過ごせた。友人と行くのとは、違った雰囲気を楽しんだ。

田坂・・・同期のメンバーと行けたのがよかった。山登りを続けていろんなところに行きたい。

会の活動を利用して、生涯歩けるようにしたい。

池田・・・鉢伏山は暑さもあり、登りがキツく厳しかった。

氷ノ山は、意外と涼しかった。

## 会長から講評

- ・土曜トレに、実践に向けたコンパスの講義を計画したい。
- ・標高差2千～3千メートル/月 歩くことを目標に、土曜トレと例会山行を活用してほしい。
- ・六甲山山行を毎月計画し、山行後の親睦も深めるようにしたい。

## 1. 質問

- ・土曜トレについて ⇒ 参加の予約なしで、9時～11時半まで
- ・高森ボランティア ⇒ 7・8・9月は活動休止
- ・学習会について ⇒ できたら、来年夏ごろ～開始
- ・個人山行について ⇒ 1か月前には計画書を須増さんに提出する。

以上



## ■ヒメボタルと高見城山 485m

## ＜ゆっくりリズム山行＞

●日 程：7月4日(金)～5日(土)

●参 加 者：L 中村 SL 橋本(万) 黒本 田中(重) 田中(由) 春本 村上

●行動記録：

(4日)：善防公民館 9:30 発—社イオン(10:00 着)10:50 発—丹波悠遊の森(11:50 着)12:00 発～高見城山登山口 12:30 発～高見城山山頂(13:45 着)14:00 発～高見城山登山口(15:10 着)～丹波悠遊の森コテージ(15:20 着)17:30 発—内尾神社(16:00 着)20:10 発—コテージ(20:40 着)

(5日)：丹波悠遊の森 9:40 発—ラベンダーパーク多可(10:10 着)12:40 発—日本茶カフェ(12:55 着)13:30 発—善防公民館(14:15 着)

## ◆ヒメボタルの乱舞を期待して

春本

六月の梅雨明けと異例の早さの今年、雨もなく猛暑いや酷暑が続いています。

7名が同じ釜の飯を食べようとコメ持参で集まり社のイオンで買い出しをして、15時の丹波悠遊の森ログハウスチェックインまでの時間で高見城山頂を目指す、体温越えの危険な暑さで頂上に達したメンバーは4名となります。

ハウスに戻り夕食の準備やシャワー室やらでこのコテージの装備がリニューアルされて気持ちよく過ごせます。

満腹の頃まだ日は高いが車で少し移動して、内尾神社に着くと数人のカメラ三脚が陣取って



いました。

こちら脇の方で据え付けますが、5～60万するカメラと聞かされタジタジ、会の自慢のTさんも蛍のことに限っては彼らのアドバイスをきくことで精いっぱい。自身はカメラもしょぼく専門用語で何が何だかさっぱり入ってこない。

暗くなりかけたころ、地元氏子で管理する人が来て解説を聞く、このヒメボタルは盛期には10数人、いや大型バスが連れてくるほどの人出で写真撮影は技術もさることながら暗いままの状態でないといふらしい。

スマホから見せてもらった写真は相当連写して重ねた写真で加工も施してやっと完成する、とても自分たちの付いていくレベルではないので観るので満足したかったが20時まで粘って数匹だけしか現れず2～3週間遅かったのかも、これだけは水物だった。

近所でよく見かける源氏平家蛍と違い、写真では点の光で発光するヒメボタル。来年も来てみたい。

2日目はラベンダーパーク多可で写真撮ったり、いい香りのスイーツを賞味する。直売所にて普段買い物しない自分がおとうと手に取り、ハーブコーナーで気持ちを落ち着かせる匂いを嗅いだらやっぱり買うのをためらってしまった。



## 会員投稿

### オニユリに彩られる旅大師＝麻生山

私がトレーニングで行く山の一つ麻生山、山頂広場の入り口では旅大師が迎えてくれる。この時期、旅大師のまわりはオニユリで彩られる。この日も暑い暑い日であった。オニユリは暑い暑い夏に似合う花だと思った。

もう一つ、山頂近くの登山道そばに小さな池がある。前からこの池には金魚がいた。それが今年はずいぶんと増えている、それに黒い金魚もいる。それだけではなくて、この日はカナダモが小さな白い花を咲かせていたし、スイレンも一輪咲いていた。手を入れてみると水はつめたかった。小さな山だが行ってみると楽しいこともある。

上田

